

路線バスでのベビーカー利用に 関する意識調査結果

主任研究員 福本 雅之

2017/5/17
第69回まちべん

研究の背景および目的

- 子育て世帯の移動の多くが自家用車に依存
→他人への気兼ねや、荷物の多さなど
- 自家用車が利用できない場合、公共交通機関を利用
→受け入れ体制が不十分
- 鉄道：エレベーター、ベビーカースペース（車いすスペースと共用）
の設置などが進行
- 路線バス：対応が遅れている（統一した取り扱いなどが無い）
→ハードウェア面だけでなく、乗務員や他の利用者の理解という面も
不十分

ベビーカー利用者が路線バス利用の際に持つ意識について調査し、改善方策検討の基礎資料を得る

ベビーカーへの対応状況（事業者）

事業者名		対応状況
豊田市内	名鉄バス	ベビーカーのまま乗車可能（運転士がベルトで固定） 混雑時は折りたたみ
	豊栄交通	HP上に言及なし
	オーワ	HP上に言及なし
愛知県内	名古屋市交通局	ベビーカーのまま乗車可能（運転士がベルトで固定） 混雑時は折りたたみ
	三重交通	ベビーカーは折りたたみでの乗車
	知多乗合	HP上に言及なし
	豊鉄バス	HP上に言及なし

※HP上での情報提供の状況（各社HPによる） 2016年6月調べ

ベビーカーへの対応状況（コミバス）

自治体名	対応状況
豊田市	HP上に言及なし
知立市	折りたたんで乗車（固定不可）
みよし市	載せ方についての言及なし
日進市	HP上に言及なし
瀬戸市	HP上に言及なし
春日井市	HP上に言及なし
長久手市	HP上に言及なし
岡崎市	HP上に言及なし
尾張旭市	HP上に言及なし

※HP上での情報提供の状況（各市HPによる） 2016年6月調べ

既往研究

鉄道を対象としたベビーカー利用者の意識把握、実態調査等

例：西本ら¹⁾²⁾、瓜生ら³⁾

地方都市の公共交通における乳幼児連れの行動把握

例：辰巳ら⁴⁾

子育て中の女性の外出行動やその支援策

例：辰巳ら⁵⁾大森ら⁶⁾谷口ら⁷⁾⁸⁾

バスにおけるベビーカー固定方法の調査結果

例：石井ら⁹⁾

地方都市の路線バスでの利用環境改善を対象とした研究はない

1. 西本・上野・梶木：公共交通機関におけるベビーカー利用者の行動特性に関する研究－神戸市における鉄道利用調査から－，日本建築学会技術報告集，第16巻，第33号，727-730，2010.6
2. 西本・上野：公共交通機関車内におけるベビーカーの取り扱い規定に関する調査研究，土木計画学研究発表会・講演集，Vol.45，CD-ROM，2012.6
3. 瓜生・西本・梶木・上野：鉄道内におけるベビーカー利用に対する乗客の意識－関西在住の鉄道利用者を対象として－，日本建築学会技術報告集，第19巻，第41号，325-328，2013.2
4. 辰巳・堤・藤林・吉城：地方都市における公共交通等での乳幼児連れ利用者の行動に関する意識，交通工学論文集，第1巻第2号，A_179-A_186，2015.2
5. 辰巳・堤・香口：PT調査データを用いた乳幼児を持つ女性の交通行動特性に関する研究，土木学会論文集D3，Vol.68,No.5，I_583-I_588，2012
6. 大森・谷口・真鍋・寺内・青野：子育て中の女性の外出行動とバリアに対する意識に関する研究－首都圏在住の乳幼児を持つ母親を対象として－，都市計画論文集，Vol.46 No.3，259-264，2011.10
7. 谷口・奥山・真鍋・大森・寺内：欧州諸国の子育て支援策に関する基礎的研究～子育て政策とバリアフリー政策に着目して～，土木計画学研究・講演集，44，CD-ROM，2011.11
8. 谷口・奥山：子育てバリアフリーにおける世代間ギャップと副作用の可能性に関する研究，土木学会論文集D3，Vol.68,No.5，I_1133-I_1142，2012
9. 石井・中嶋・鮎川・岡野：路線バスにおけるベビーカー固定方法の検討，JARI Research Journal，2014.10

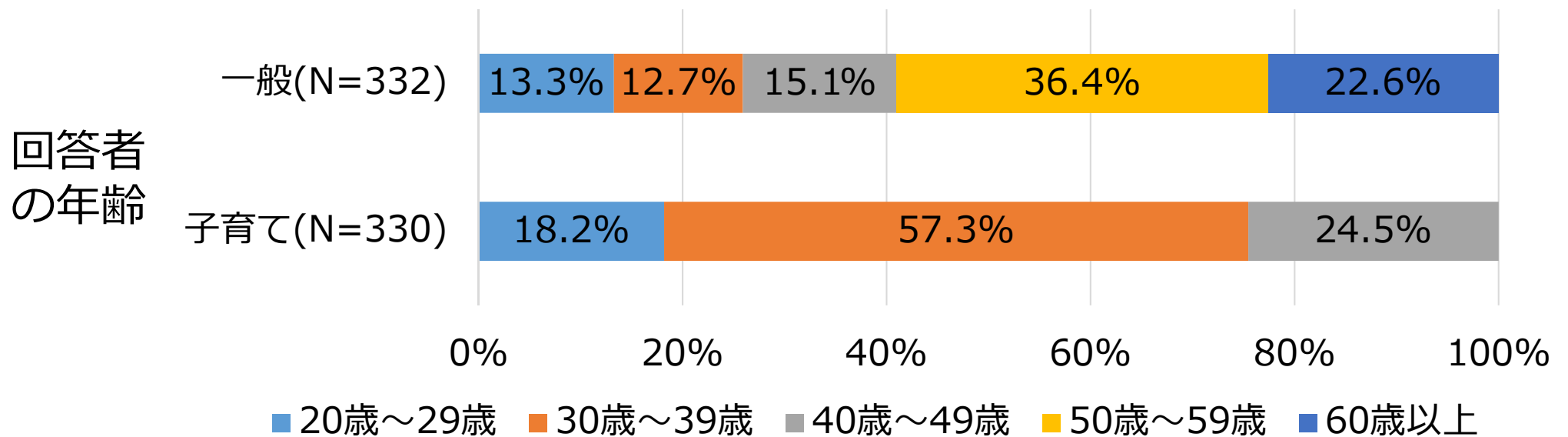
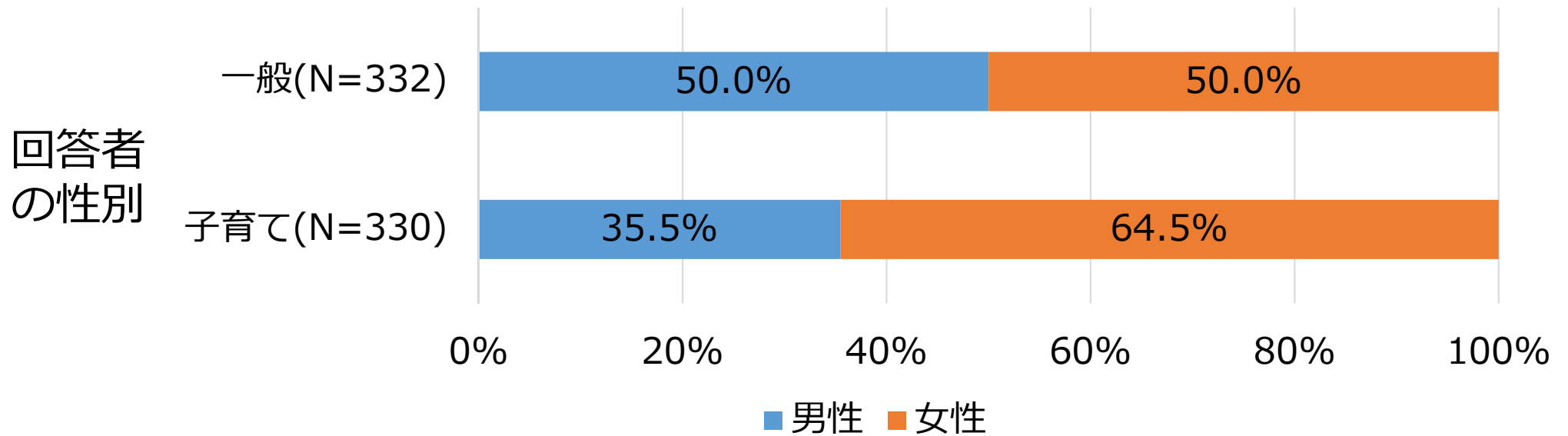
調査の概要

Webアンケートの概要

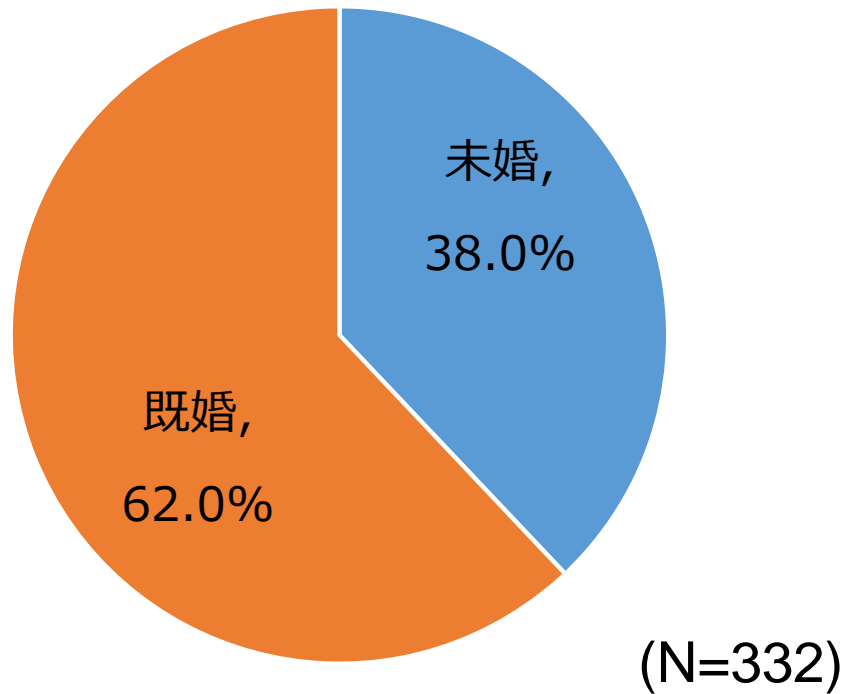
0～4歳の子供が世帯内にいる人と、そうでない人を対象

対象者	子育て世帯	一般世帯
調査時期	2016年11月	
居住地	愛知県内	
公共交通利用習慣	あり+なし	あり
サンプル数	330	332

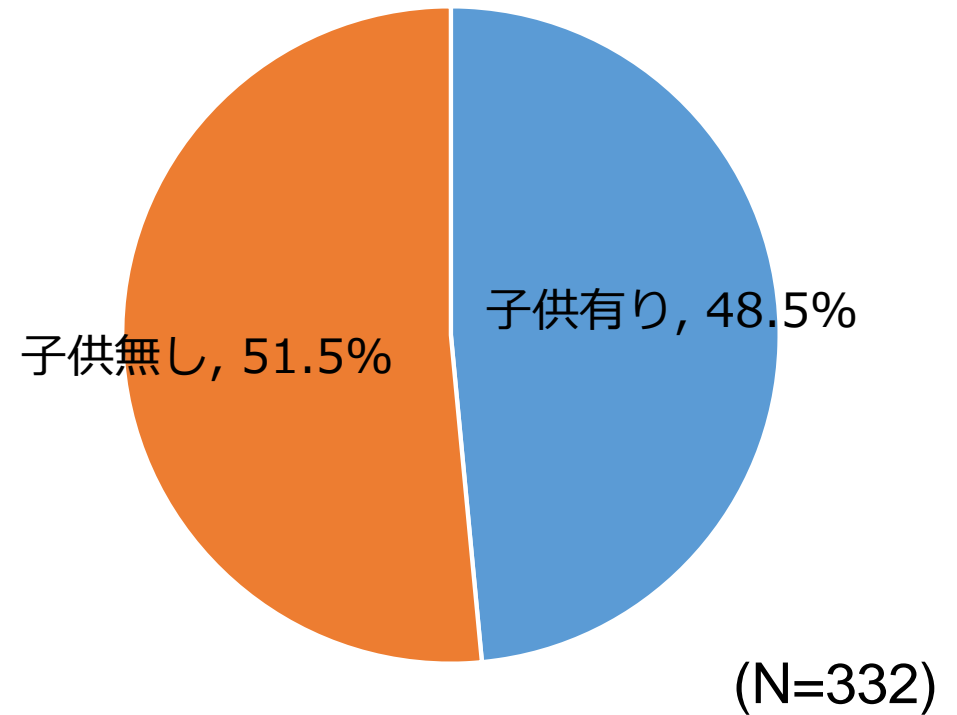
回答者の属性



回答者の属性



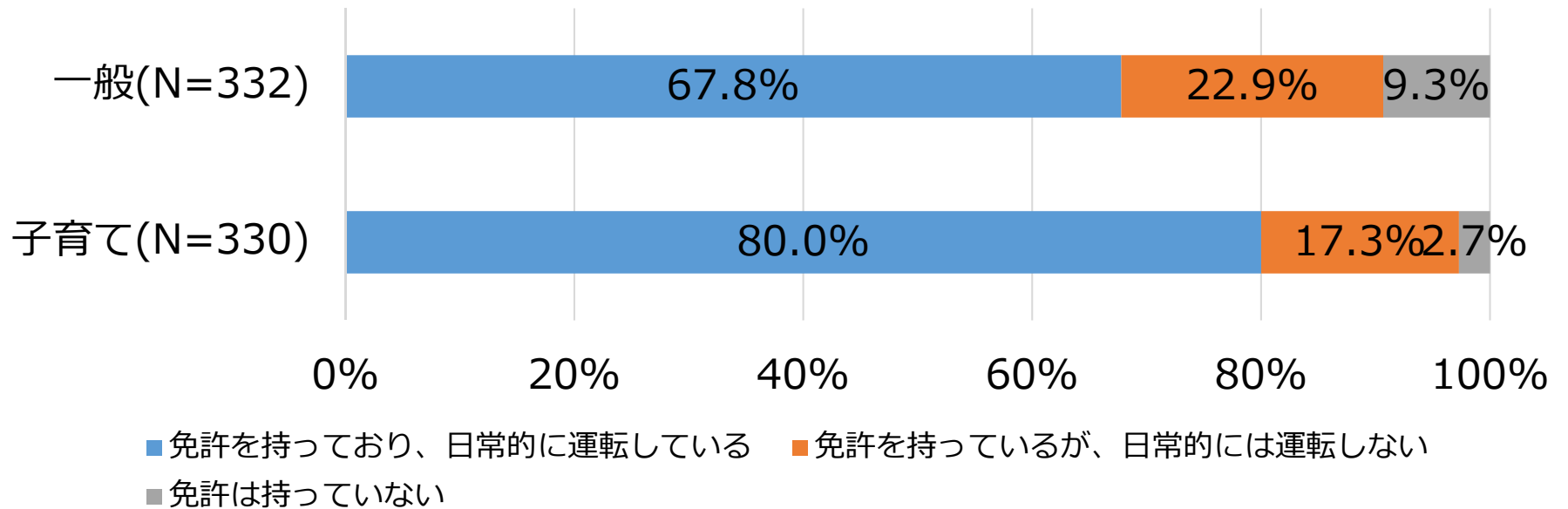
未婚・既婚
(一般バス利用者のみ)



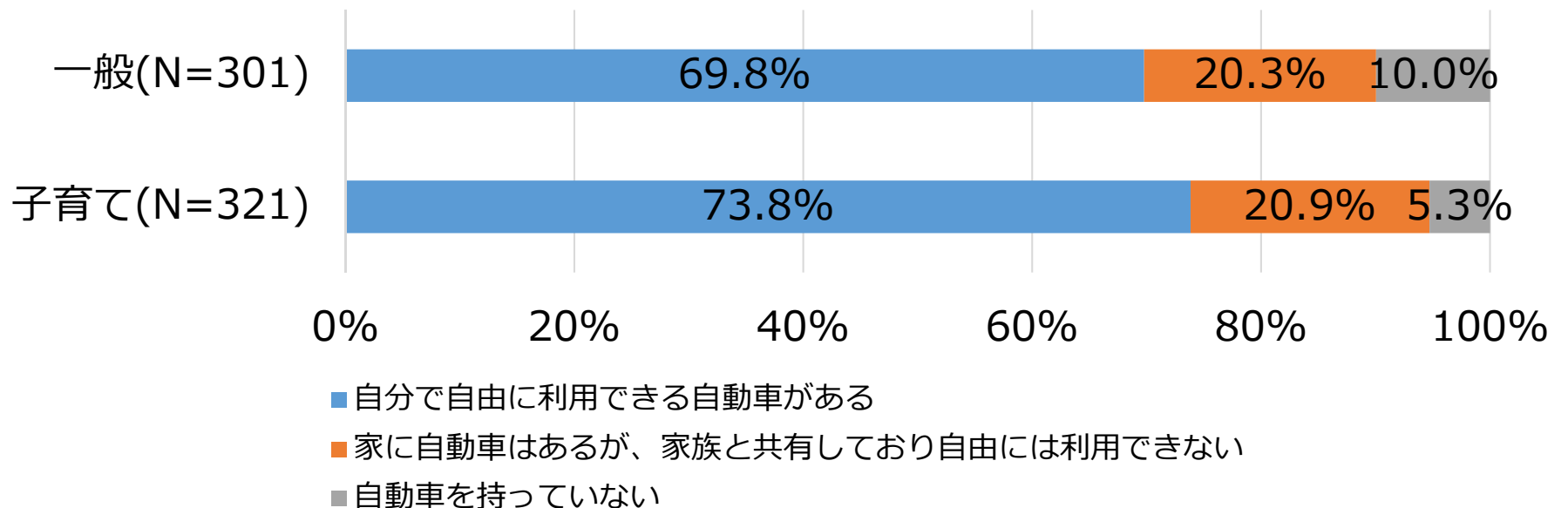
子供の有無
(一般バス利用者のみ)

回答者の交通行動

免許保有と 運転習慣

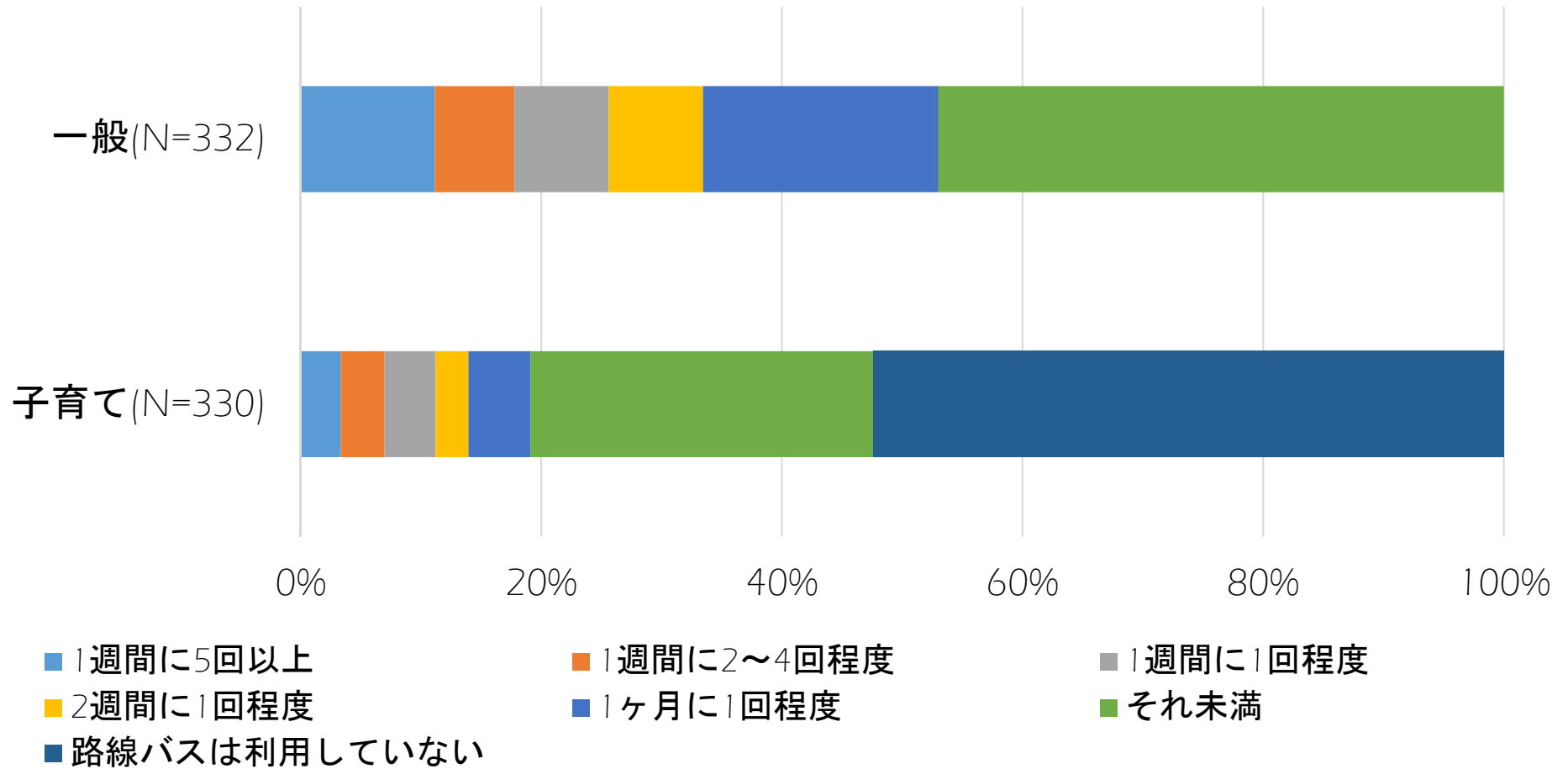


自由車の 有無



回答者のバス利用

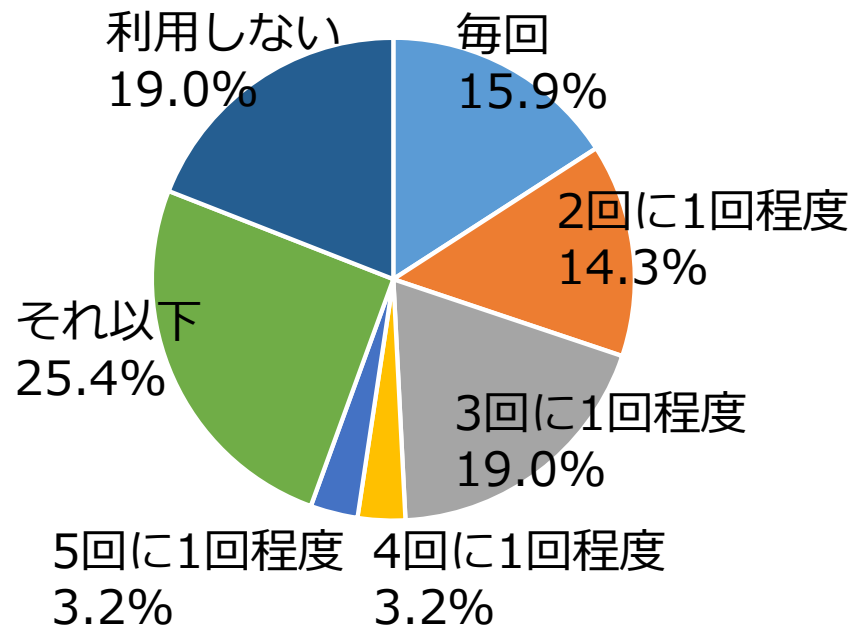
バス利用頻度



子育て世代のバス利用

子育て世代のうち、バスを利用する習慣がある人に「子連れでバスを利用する頻度」を質問

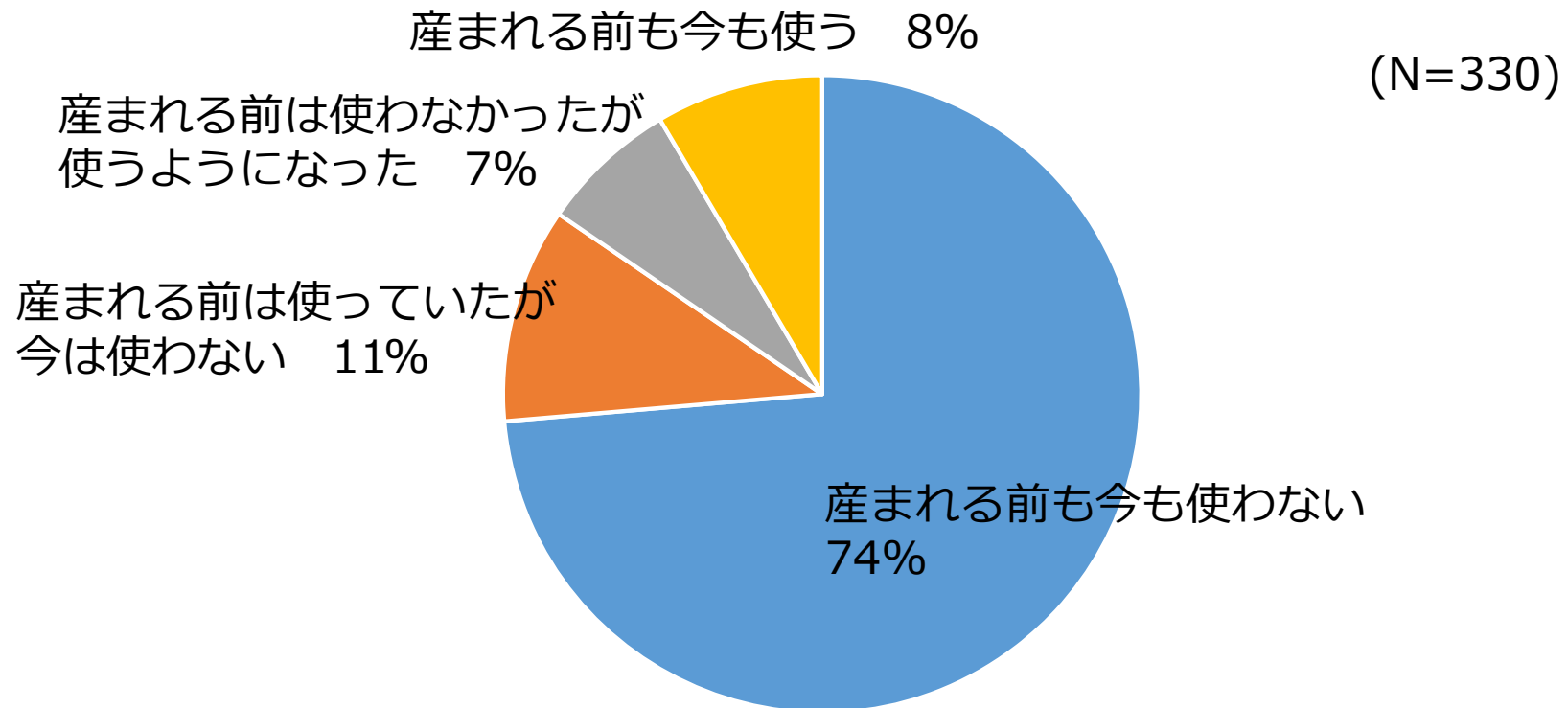
(N=63)



- 路線バスを利用するという人であっても、半数近くは子連れの場合にはバスをほとんど利用しない
- 毎回利用しているという回答も16%程度存在

子の誕生によるバス利用への影響

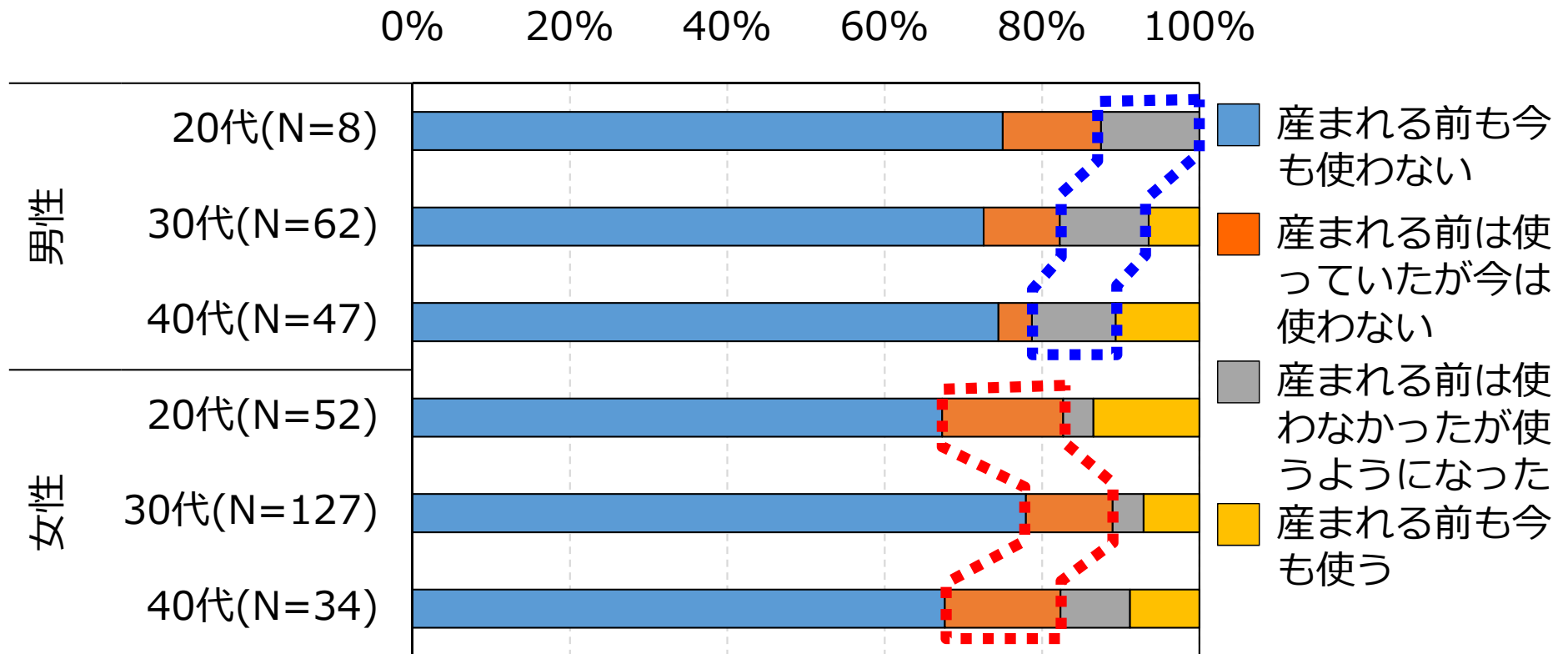
子供が誕生したことによってバス利用に変化が生じたかどうかを質問



- 2割弱の人は子供の誕生によってバス利用に影響を受けている

子の誕生によるバス利用への影響

バス利用の変化と年齢・性別のクロス集計

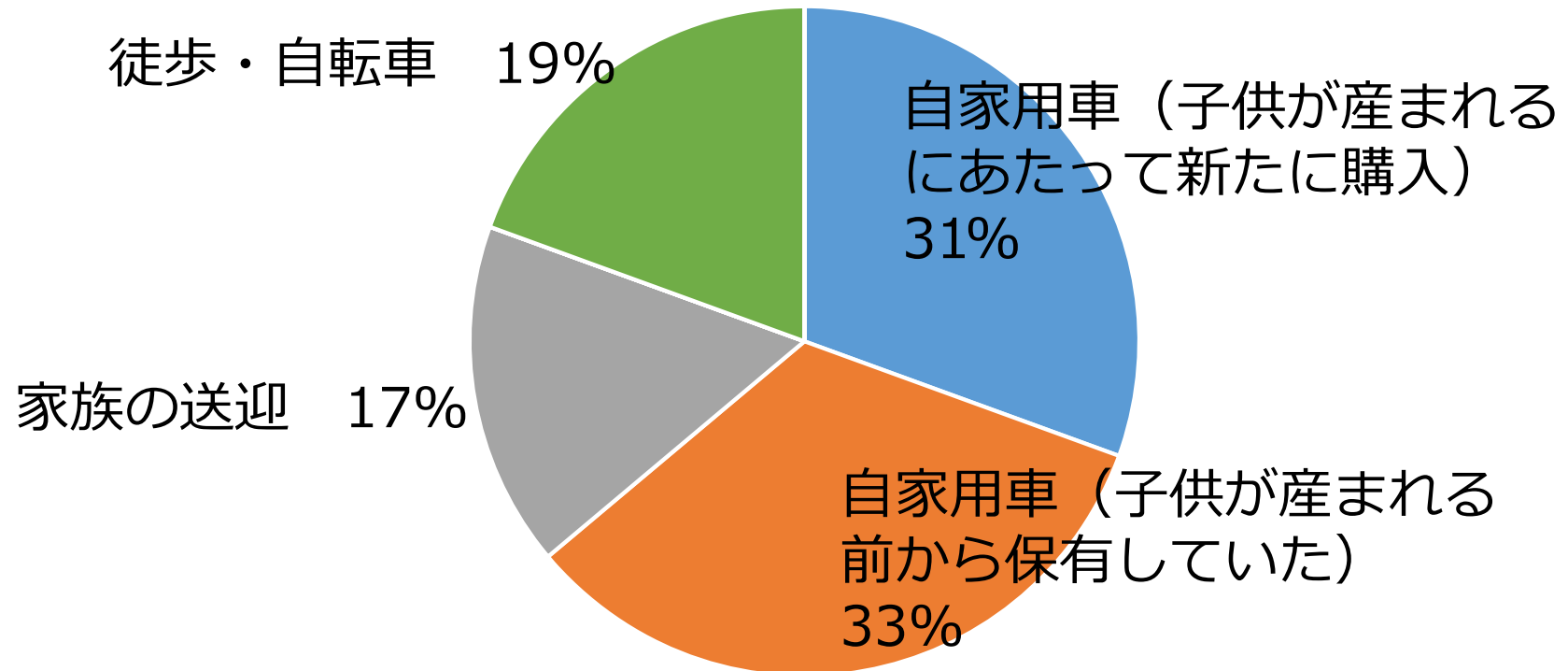


- 全ての年代において女性の方がバスから他手段に転換した割合が高い傾向
- 男性は子供が産まれてからバス利用をはじめた割合が一定量存在

子の誕生によるバス利用への影響

路線バスを利用しなくなったという回答者の転換先交通手段

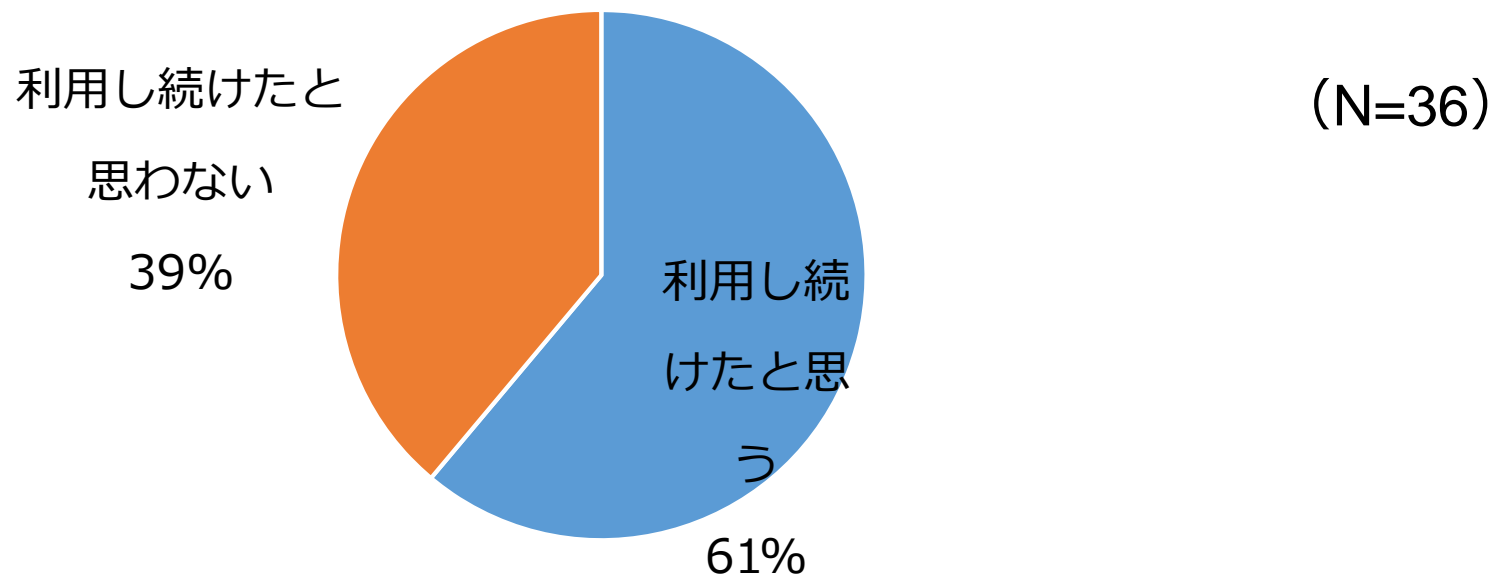
(N=36)



- 自動車が一番多く、6割以上
- 31%の人は子供が産まれたことによってクルマを購入

バス利用をやめた人の継続意向

路線バスから他の交通手段に転換したという回答者に対して、子供を連れた際のバス利用環境が十分に整備されていれば、バス利用を継続したかどうかについて質問

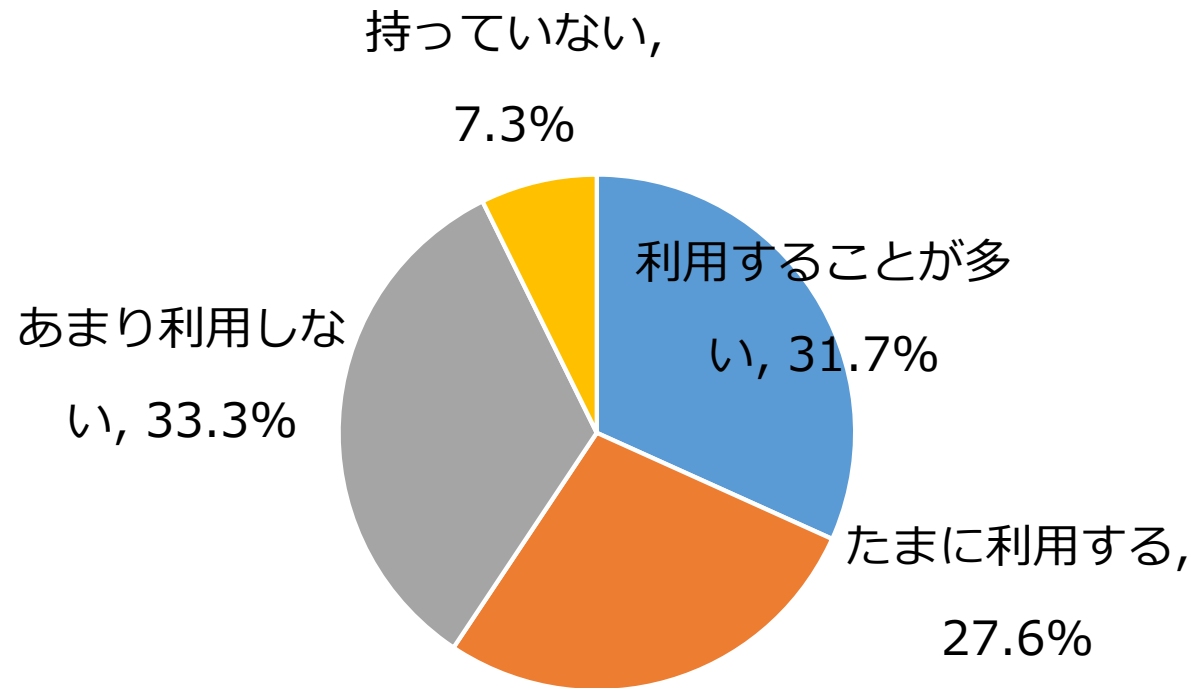


- 6割以上の回答者が、バスを利用し続けたと思うと回答
- 子供連れでのバス利用環境を整備することによって、他手段への転換を和らげられる可能性

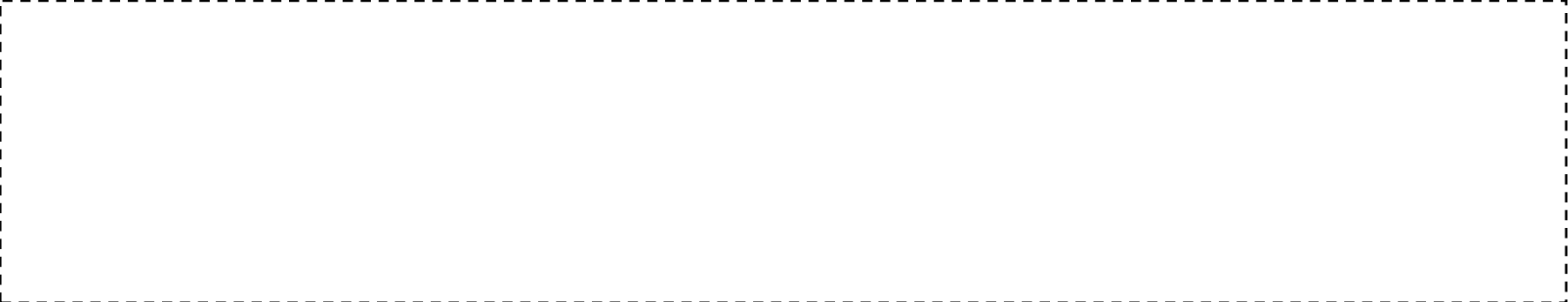
外出時のベビーカー利用

子供を連れての外出時にベビーカーを利用するかどうかを質問

(N=315)



- 6割程度の人がベビーカーを利用するという回答
- 4割程度の人あまりベビーカーを利用しない



路線バス利用における不安感の 子育て世代と一般利用者の比較

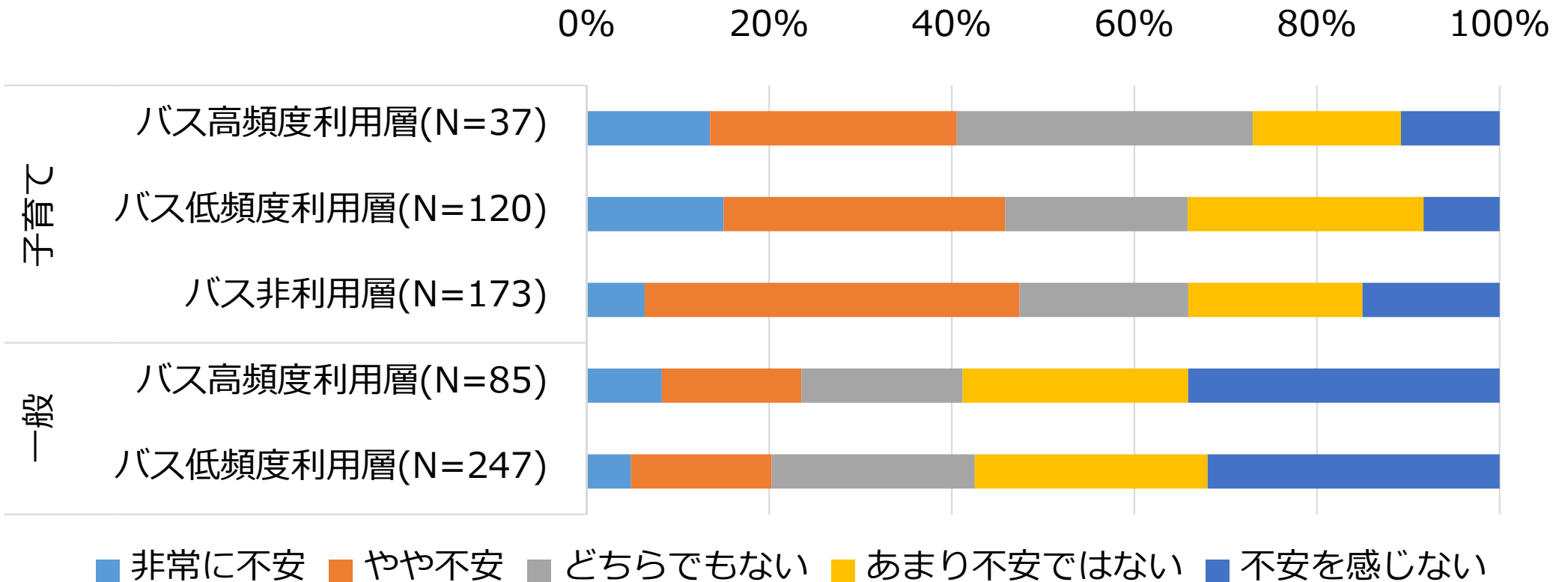
回答者の分類

- バス利用の際に不安に感じることを質問し、子育て世代と一般バス利用者の回答を比較
- 普段バスを利用しない回答者（子育て世代のみ）は、バスを利用することを想像して回答
- 不安の度合いを5段階で評価

	路線バスの利用頻度の設問への回答
①バス高頻度利用層	1週間に5回以上 1週間に2～4回程度 1週間に1回程度
②バス低頻度利用層	2週間に1回程度 1ヶ月に1回程度 1ヶ月に1度未満
③バス非利用層	路線バスは利用していない

(1)バス待ち環境

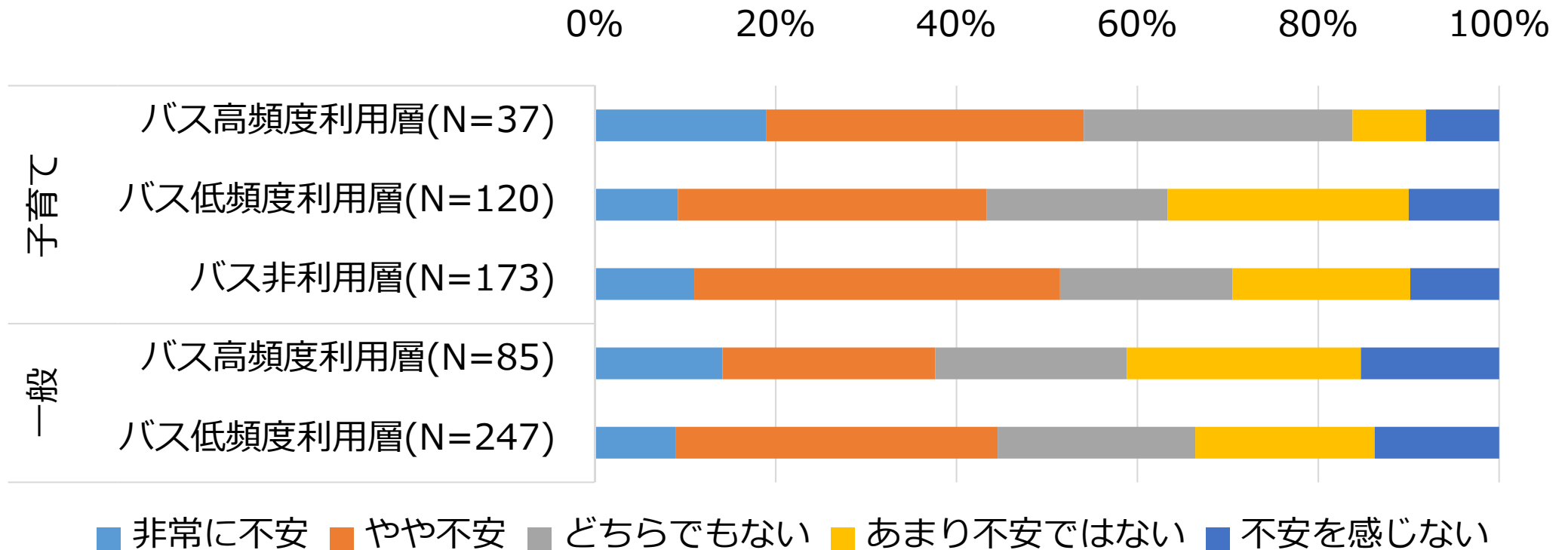
バス停でバスを安全に待つことができないことに対する不安感



- バス利用頻度にかかわらず、子育て世代の方が不安という回答をしている割合が高い
- 子供を連れてバスを待つことは、大人だけでバスを待つよりも不安を感じる傾向

(2) バスが行ってしまっただのかわからない

バスを待っているときに、バスがすでに行ってしまったのかどうか分からないことに対する不安感

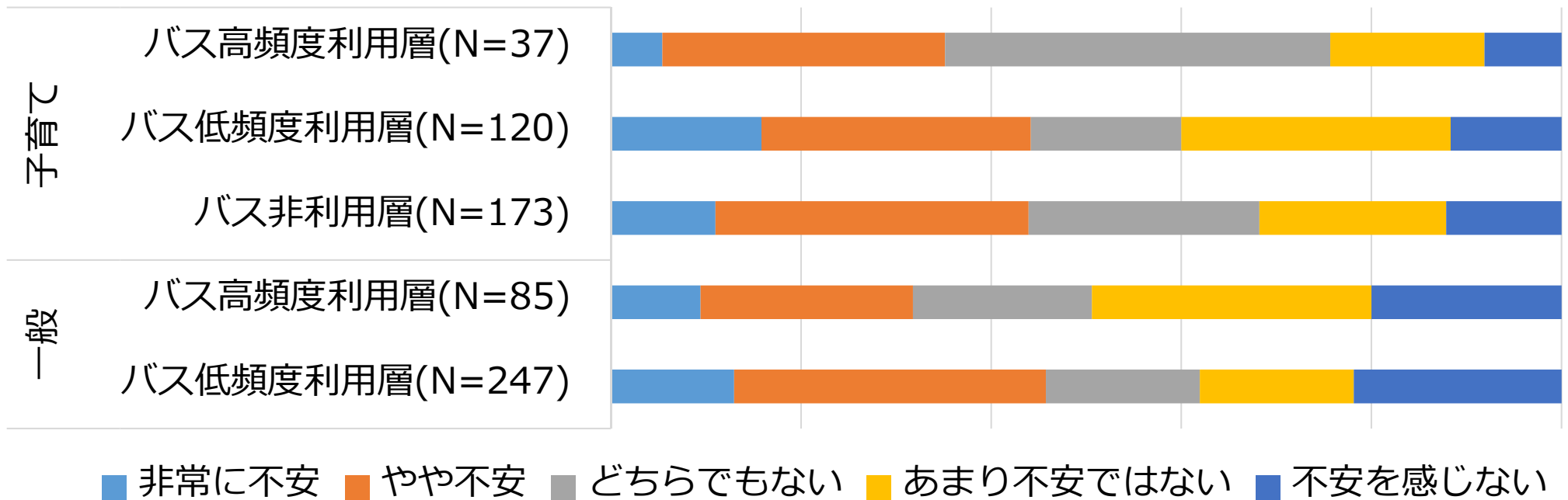


- どの層であっても不安と感じる割合が5割程度存在
- 一般利用者についてはバスをよく使う利用者の方がやや不安感が小さい
- 子育て世代には、バス利用頻度と不安感の関係に法則は見いだせない

(3)行きたいところに行くかどうか

バスが自分の行きたいところに行くかどうか分からないことに対する不安感

0% 20% 40% 60% 80% 100%

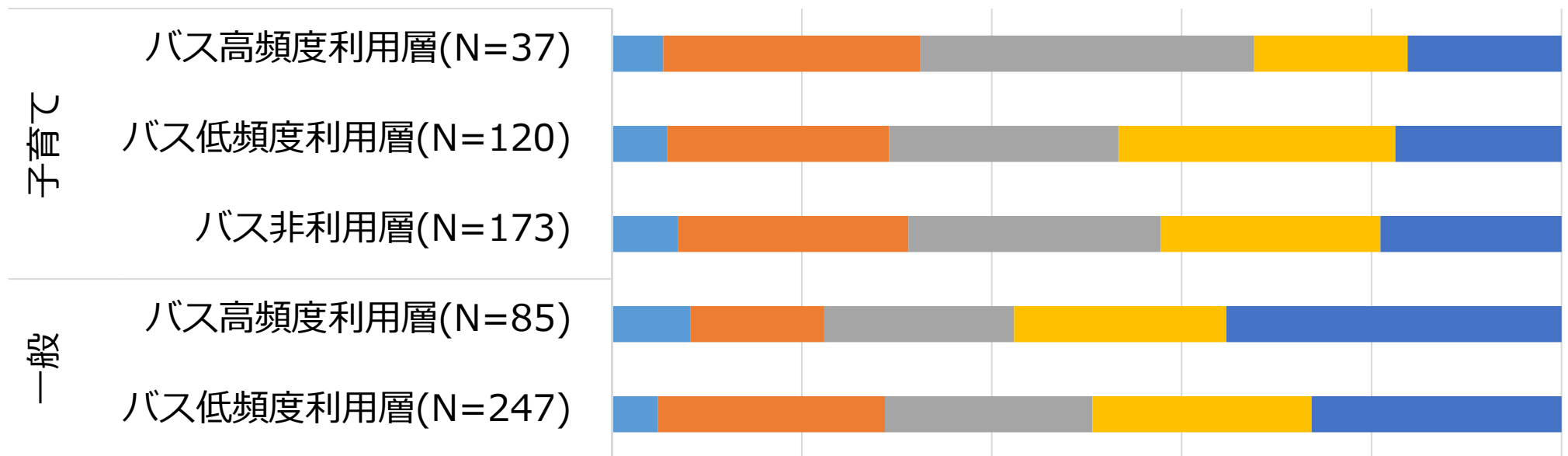


- 一般利用者、子育て世代ともに、バス高頻度利用層の方が不安という回答の割合がやや少ない

(4)乗車口が後ろか前かがわからない

乗車口が後ろか前かわからないことに対する不安感

0% 20% 40% 60% 80% 100%



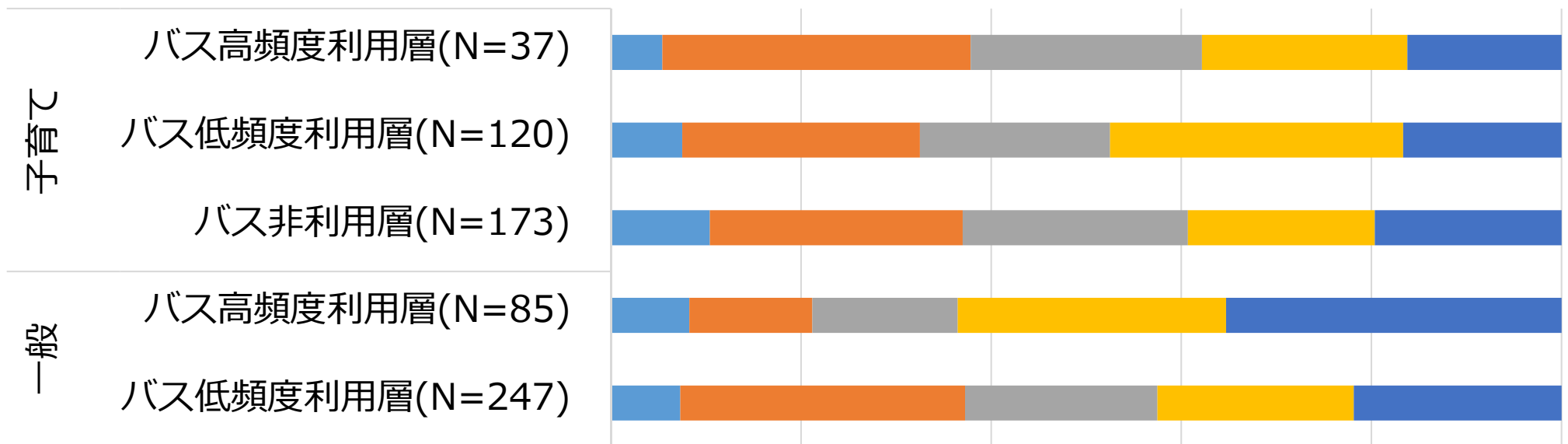
■ 非常に不安 ■ やや不安 ■ どちらでもない ■ あまり不安ではない ■ 不安を感じない

- いずれの属性であっても、不安という回答は3割程度にとどまっており、不安を感じる割合は多いとは言えない
- 利用頻度による差も大きくない

(5) 運賃をいつ支払えば良いか

運賃をいつ支払えば良いかわからないことに対する不安感

0% 20% 40% 60% 80% 100%

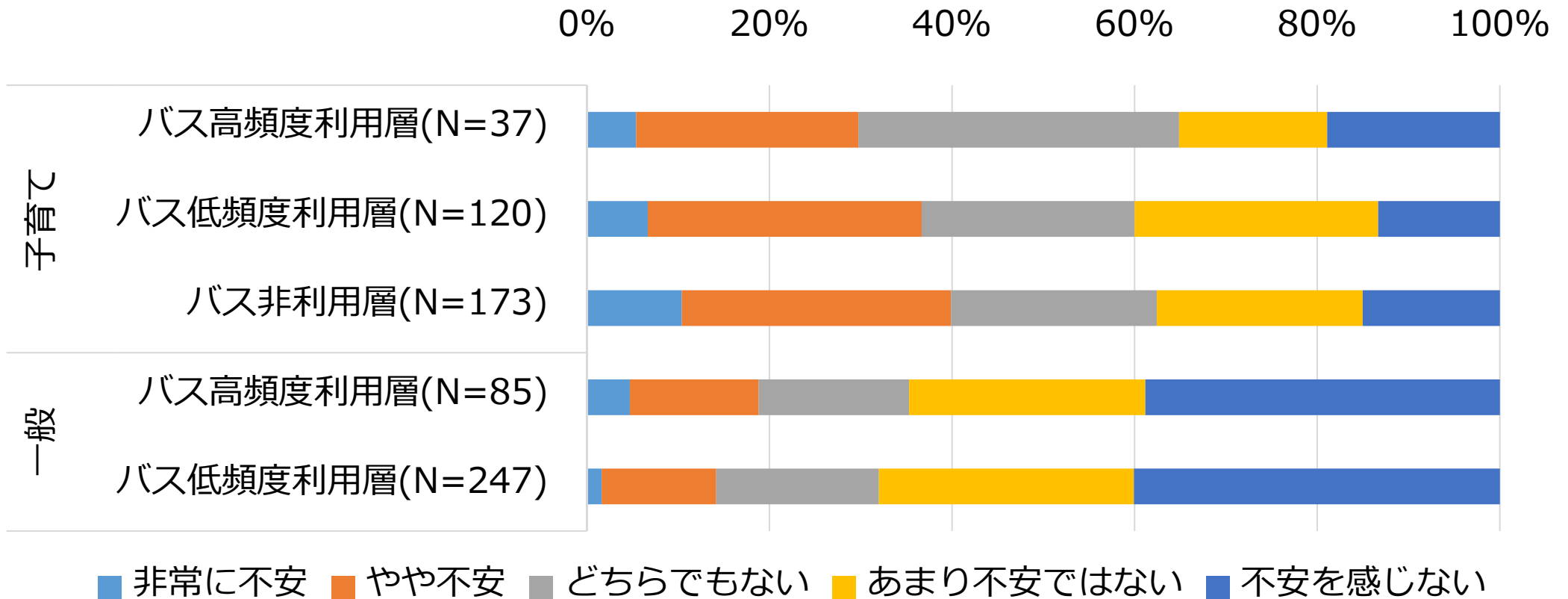


■ 非常に不安 ■ やや不安 ■ どちらでもない ■ あまり不安ではない ■ 不安を感じない

- 一般利用者のバス利用頻度が高い回答者に不安の回答割合が小さい
- その他は同じような割合であり、属性による差は見られない

(6)バスとバス停の間に段差

バスに乗り降りするときにバス停との間に段差があることに対する不安感

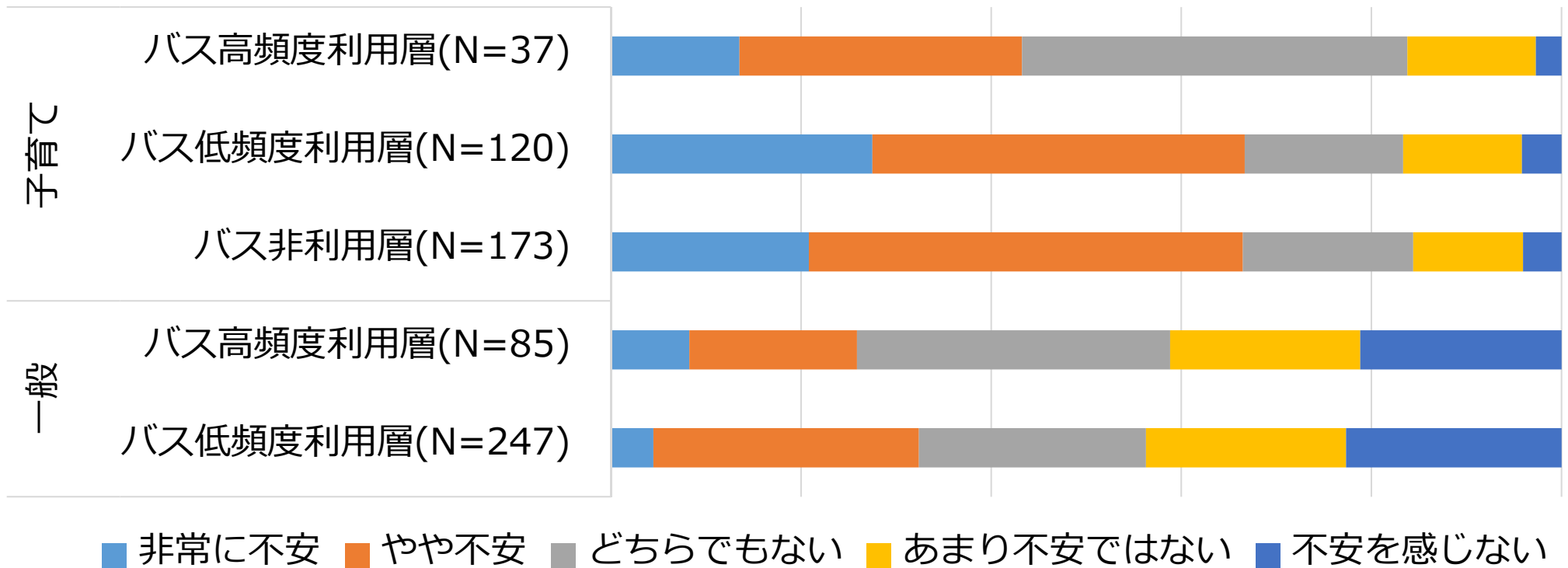


- 子育て世代は不安の回答割合が、一般利用者に比べて高い
- 子育て世代の中でも、利用頻度が少ないほど不安という回答割合が高い

(7)混雑しているかもしれないこと

バスが混雑しているかもしれないことに対する不安感

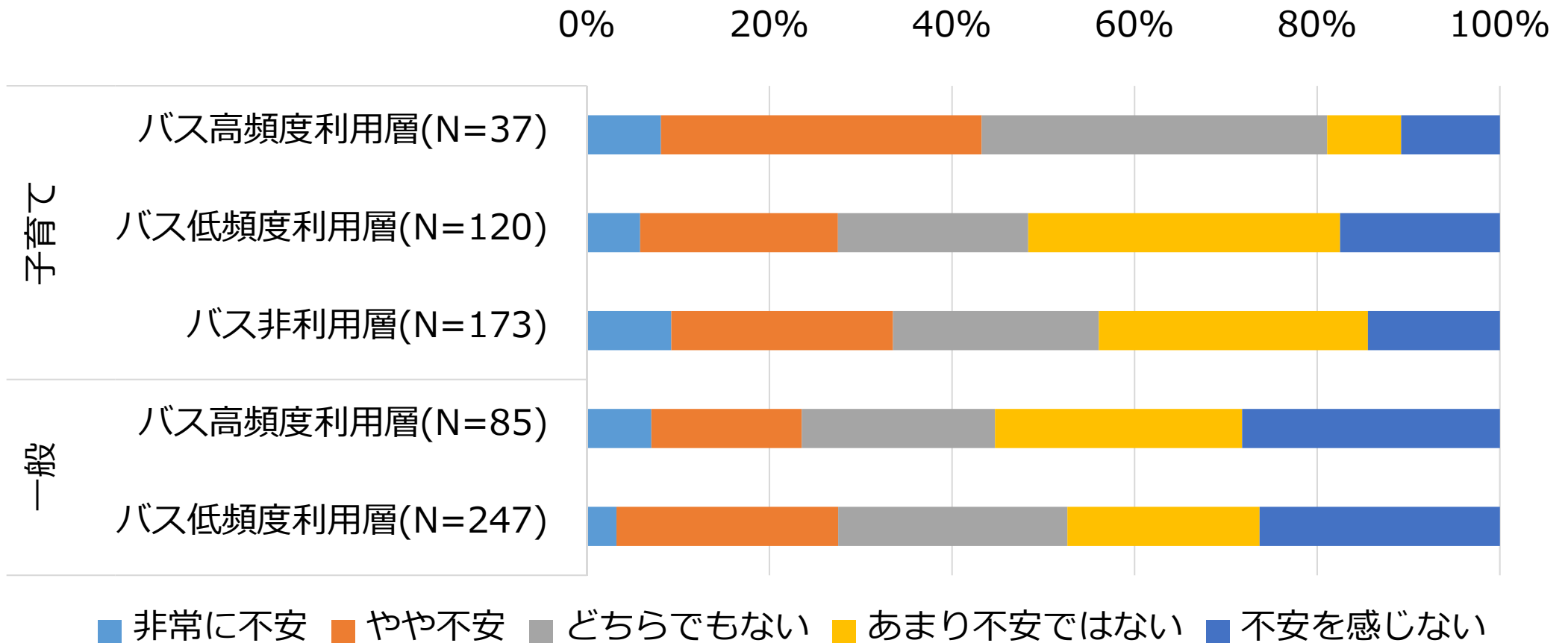
0% 20% 40% 60% 80% 100%



- 子育て世代の方が不安という回答割合は全体的に高い傾向
- 利用頻度が少ない層ほどその割合が高くなる

(8)バスがどこを走っているのか

乗車したバスがどこを走っているのかわからないことに対する不安感

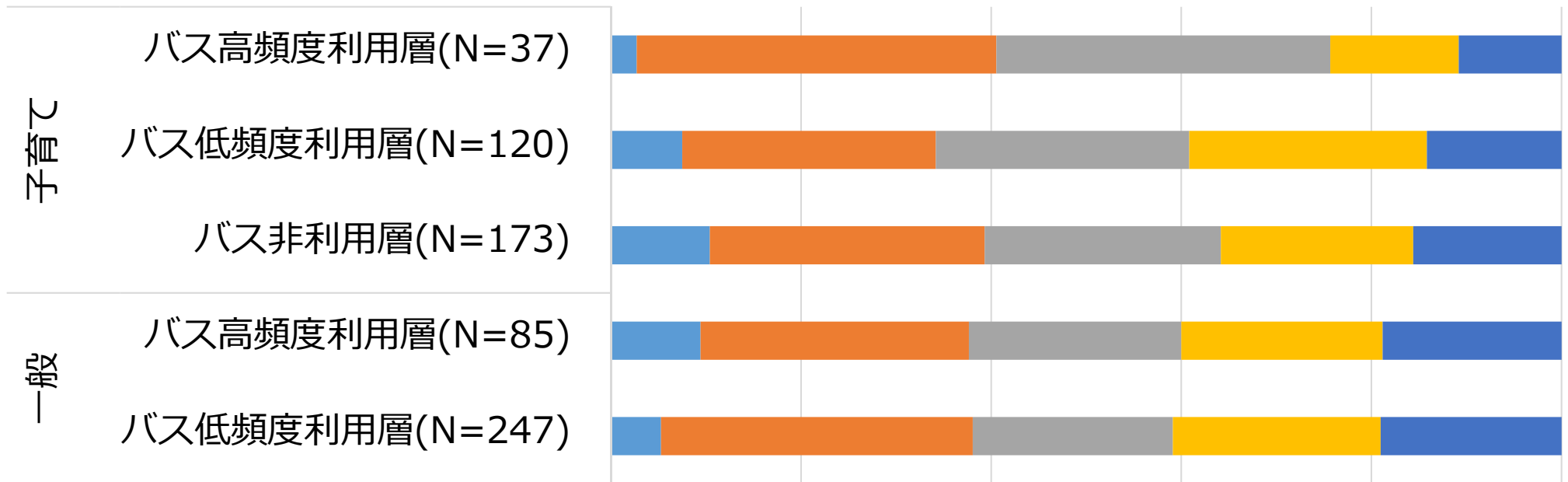


- 一般利用者に比べて、子育て世代の方が不安という回答割合が若干高い
- 利用頻度による傾向の差異に法則は見いだせない

(9)目的地にいつ着くか

バスが目的地にいつ着くかわからないことに対する不安感

0% 20% 40% 60% 80% 100%



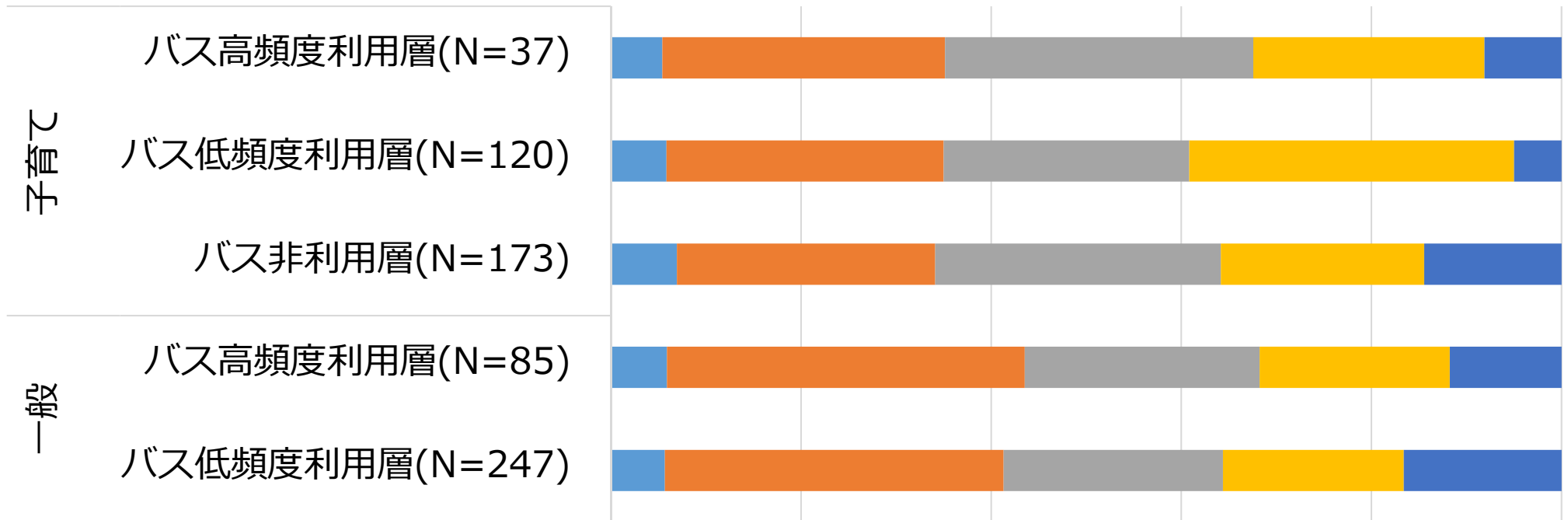
■ 非常に不安 ■ やや不安 ■ どちらでもない ■ あまり不安ではない ■ 不安を感じない

- 一般利用者と子育て世代、またバス利用頻度による明確な傾向の違いなし

(10)バスが遅れるかもしれない

乗っているバスが遅れてしまうかもしれないことに対する不安感

0% 20% 40% 60% 80% 100%



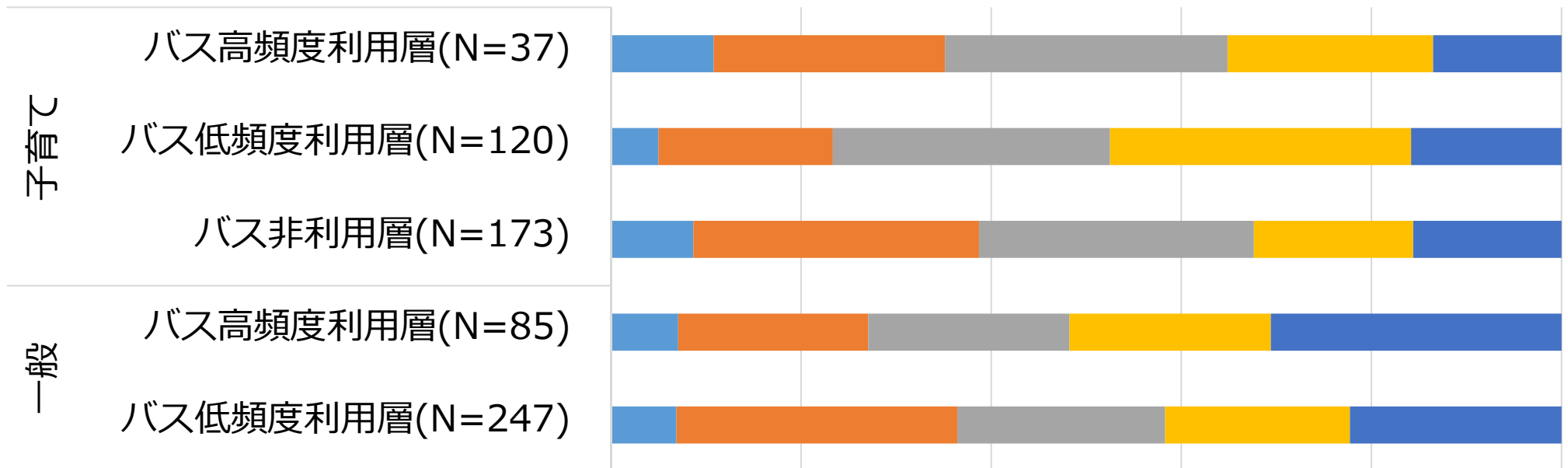
■ 非常に不安 ■ やや不安 ■ どちらでもない ■ あまり不安ではない ■ 不安を感じない

- 子育て世代の方が若干不安という回答割合が小さい
- いずれの属性においても同じような傾向

(11) 運賃がいくらかわからない

目的地に着くまで運賃がいくらかわからないことに対する不安感

0% 20% 40% 60% 80% 100%

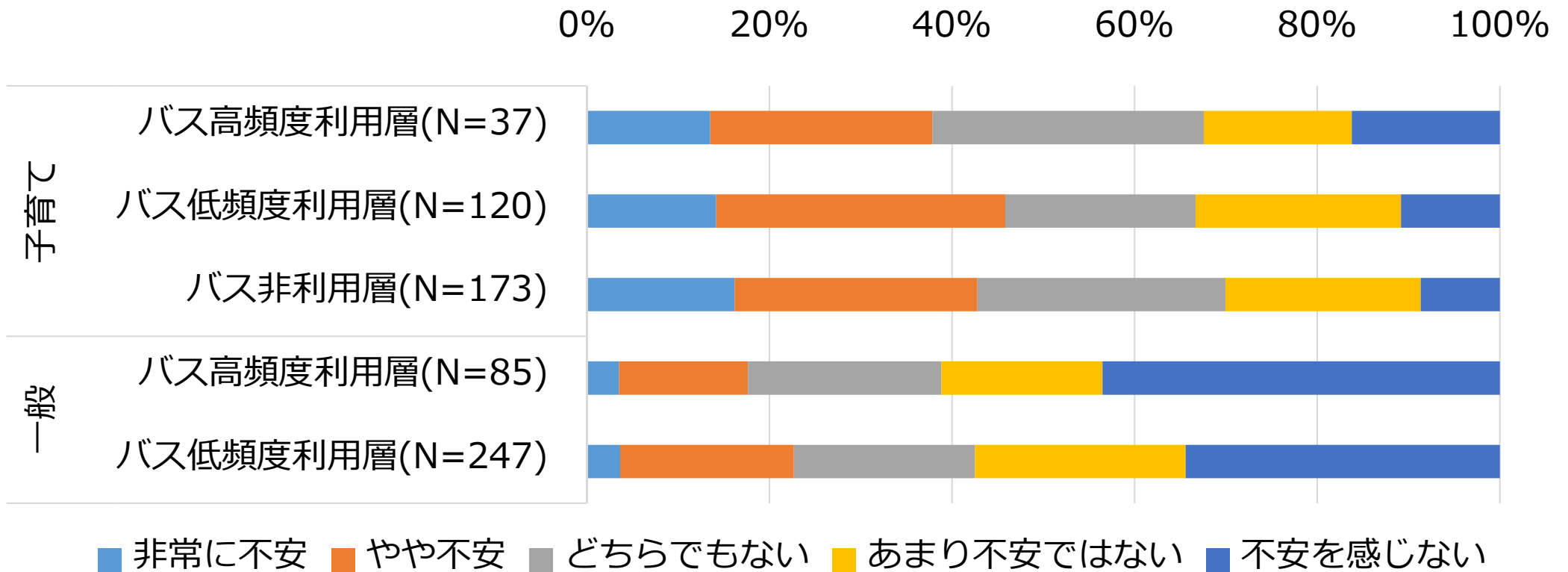


■ 非常に不安 ■ やや不安 ■ どちらでもない ■ あまり不安ではない ■ 不安を感じない

- 子育て世代のバス非利用層および一般利用者の低頻度利用層の不安割合が高い
- 子育て世代については高頻度利用層も不安の割合が高くなっており、属性による傾向に法則が見いだせない

(12)乗降にかかる時間

自分がバスに乗り降りすることに時間がかかってしまうかもしれないことに対する不安感



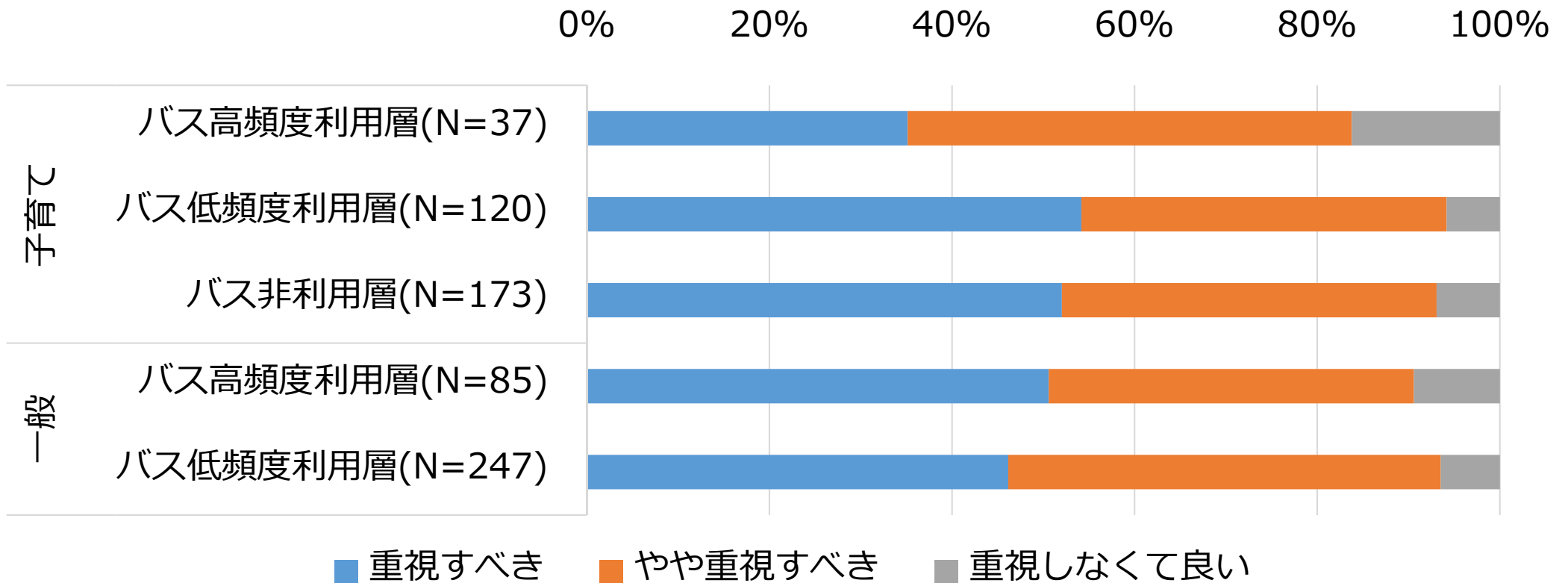
- 子育て世代の方が不安を感じるという回答割合が高い
- 子供を連れて乗り降りすることによって時間がかかることに対する負担



路線バス利用環境の整備要望に 関する子育て世代と一般利用者 の比較

(1)他の利用者の意識啓発

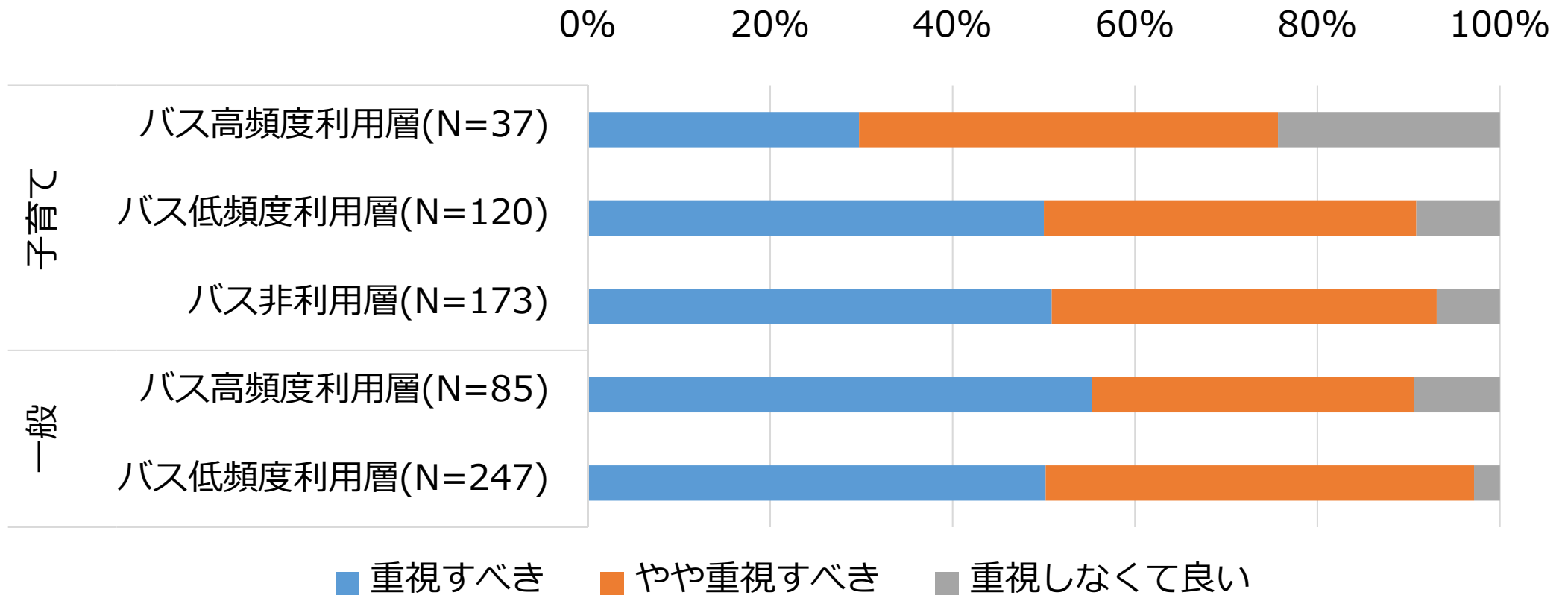
子連れやベビーカーでバスを利用することについて、他の利用客の理解を得られるように啓発を行うべきかどうか



- 子育て世代のバスを高頻度に利用する層が重視すべきという回答が少ない結果となり、直感的な解釈と逆

(2) 事業者への教育

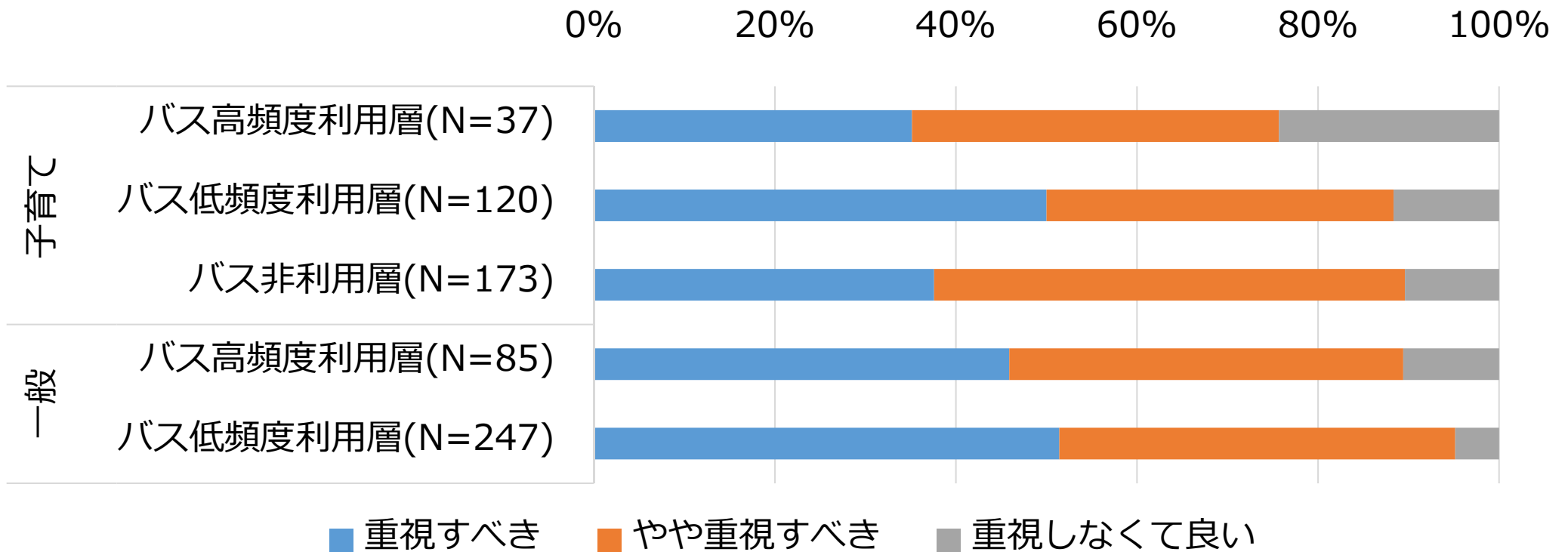
子連れやベビーカー利用者が安全・安心に利用できるようにバス会社や乗務員への教育を行うべきかどうか



- 意識啓発と同様、子育て世代のバスを高頻度に利用する層が重視すべきという回答が少ない結果となり、直感的な解釈と逆

(3) 利用者への情報発信

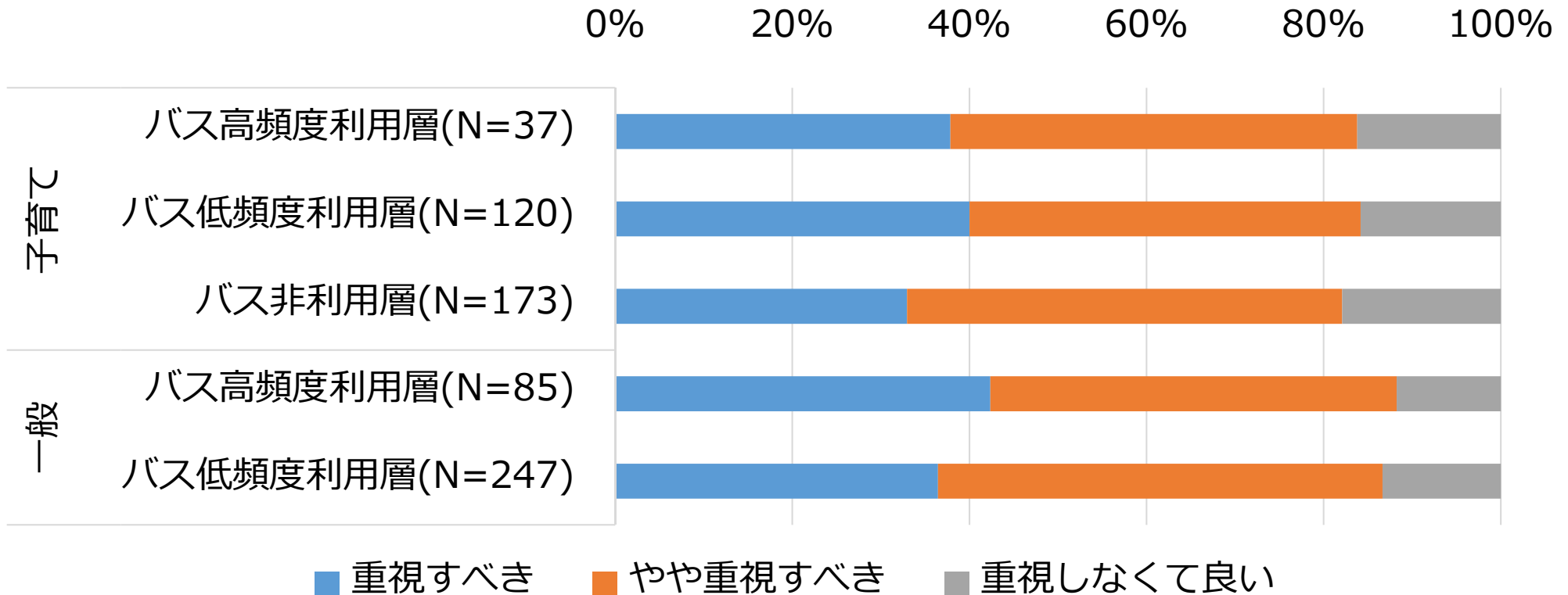
バスにベビーカーを乗せる方法について、子育て世代にわかりやすく情報発信するべきかどうか



- 子育て世代の中でも、バスの利用頻度が低い層において重視すべきとの回答割合が高い

(4)外出先でのベビーカー貸し出し

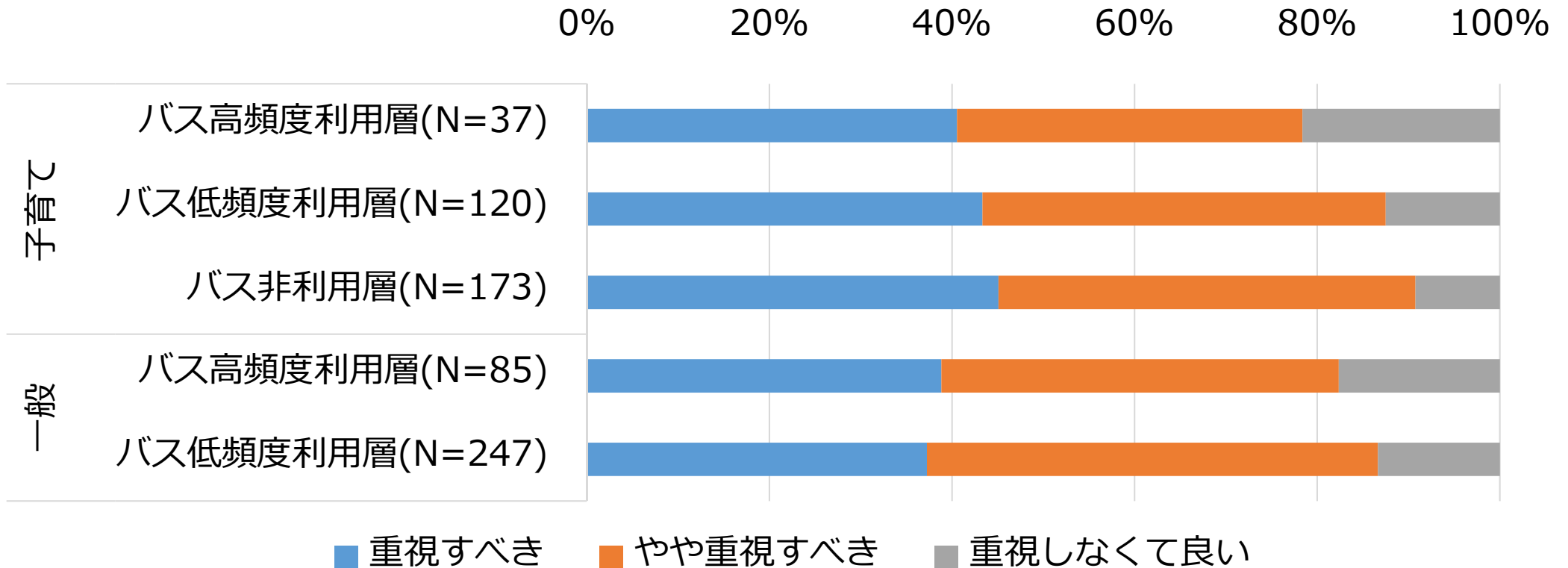
外出先でベビーカーの貸し出しが利用でき、ベビーカーなしで子供とバスで出かけられるようにするべきかどうか



- 重視すべきとの回答割合はどの属性でも概ね4割弱であり、属性による差異は見られない

(5)ベビーカー優先スペースの設置

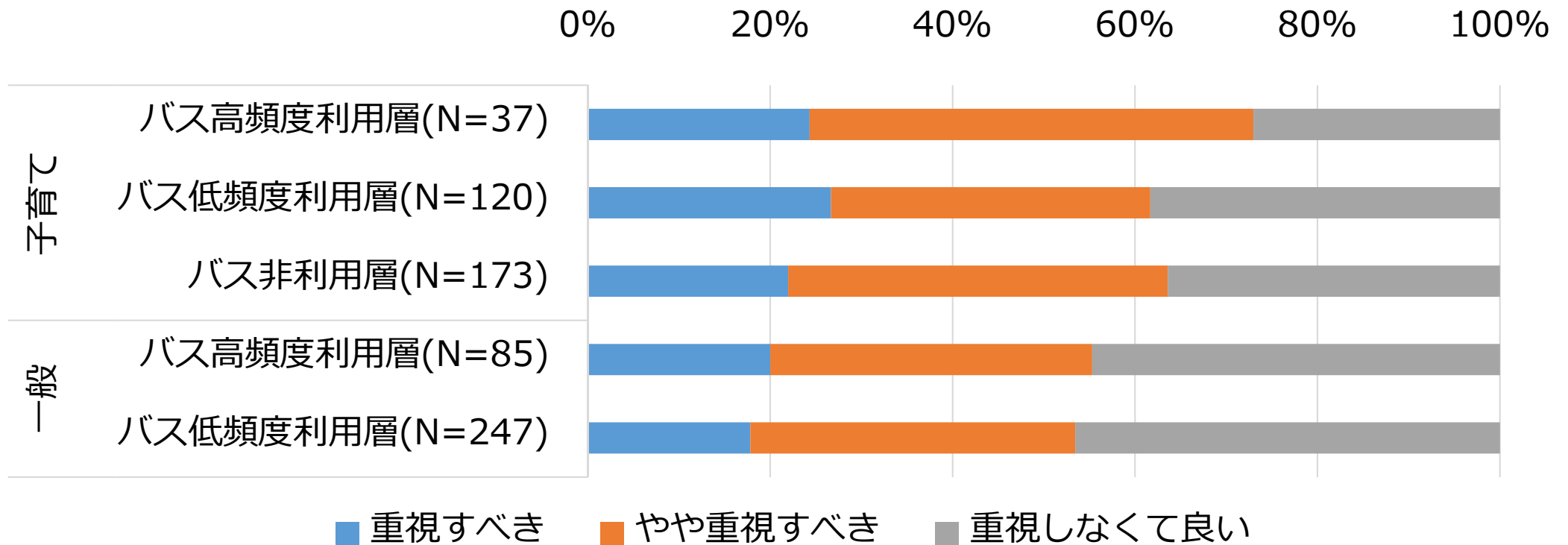
バス車内に子連れ客やベビーカー利用者が優先的に利用できる座席やスペースを設けること



- いずれの属性においても重視すべきとの回答割合は4割程度
- 子育て世代では利用頻度が低くなるほど、重視すべきとの回答割合が増加

(6) 運賃の割引

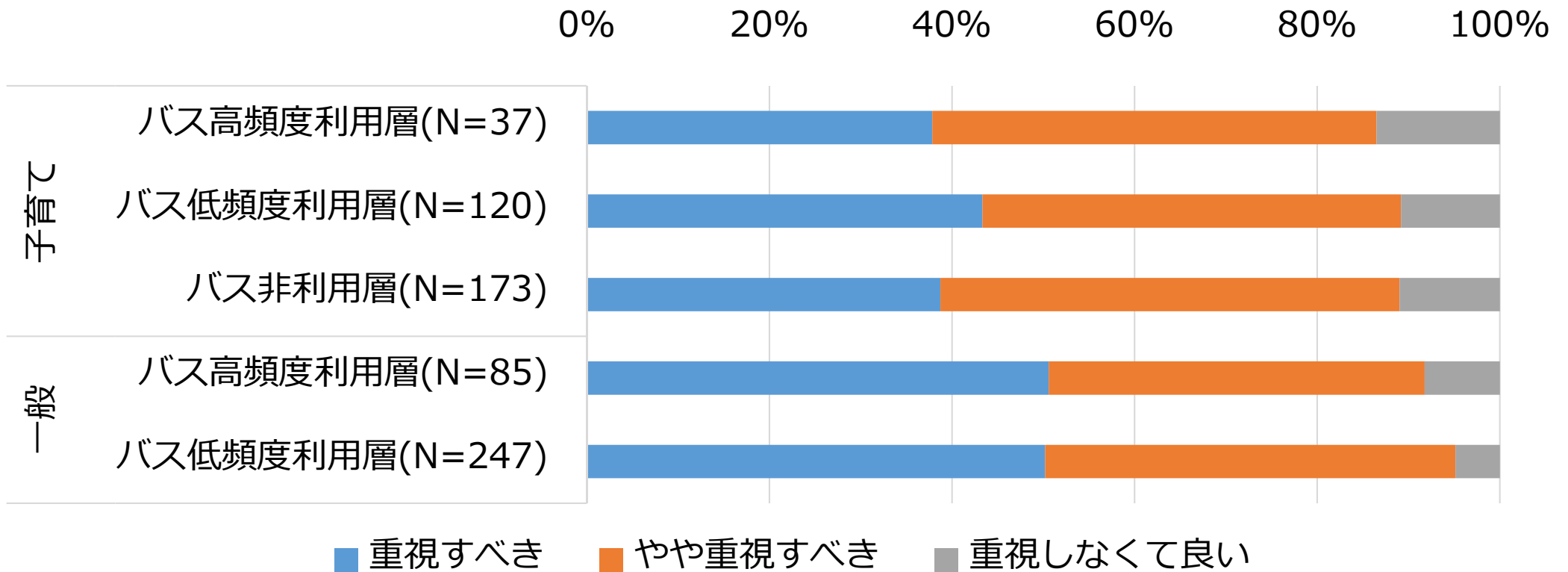
子連れやベビーカー利用の場合、保護者のバス運賃を割り引く制度を導入するべきかどうか



- 重視すべきとの回答割合はいずれの属性においても2割程度と高くない
- 子育て世代でバス利用頻度が高くなると、重視すべきとの回答割合が若干増加

(7)バスを乗り降りしやすくする

バス停にベンチや屋根を設置したり、バスの出入り口をバス停に近づけて停車するなど、乗り降りをしやすくするべきか



- 一般バス利用者の方が重視すべきとの回答割合が高い

まとめ

【子育て世代の交通行動とバス利用】

- バス利用者でも子供を連れての外出時にバスを利用する割合は半数程度
→バス利用の習慣があっても子連れでのバス利用には抵抗感が大きい
- 日常的に子供を連れてバスに乗っている人も16%程度存在
- 子供の誕生によってバスから他手段に転換した人の多くが自家用車へ。一方で、子供が産まれたことでバス利用をはじめた人も存在

【子供連れでのバス利用への不安】

- 子育て世代と一般バス利用者で、バス利用への不安感が大きく異なった項目は、「バス停でバスを安全に待つことが出来ないこと」、「乗り降りするときにバスとバス停の間に段差があること」、「バスが混雑しているかもしれないこと」、「自分が乗り降りすることに時間がかかってしまうかもしれないこと」

【子供連れでのバス利用環境整備の重要性】

- 属性によって大きく重要度が異なるという項目なし。
- 「周囲の利用者への意識啓発」や「事業者への教育」については、子育て世代でバスをよく利用する人ほど重要とは考えない傾向
→直感的な理解と逆